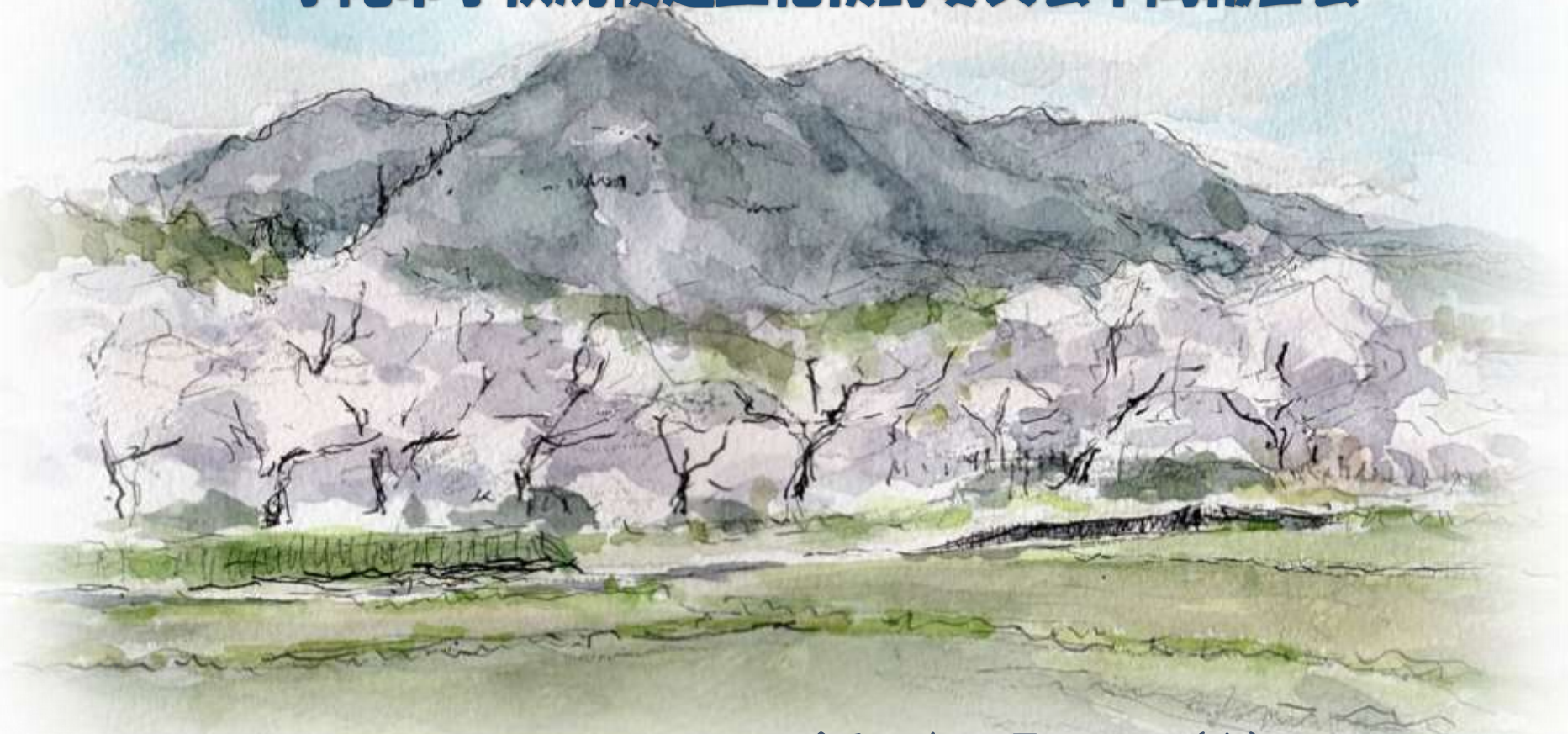


宇陀の教育の未来について考える

宇陀市学校規模適正化検討委員会中間報告会



令和2年8月29日（土）

宇陀市教育委員会事務局 教育総務課

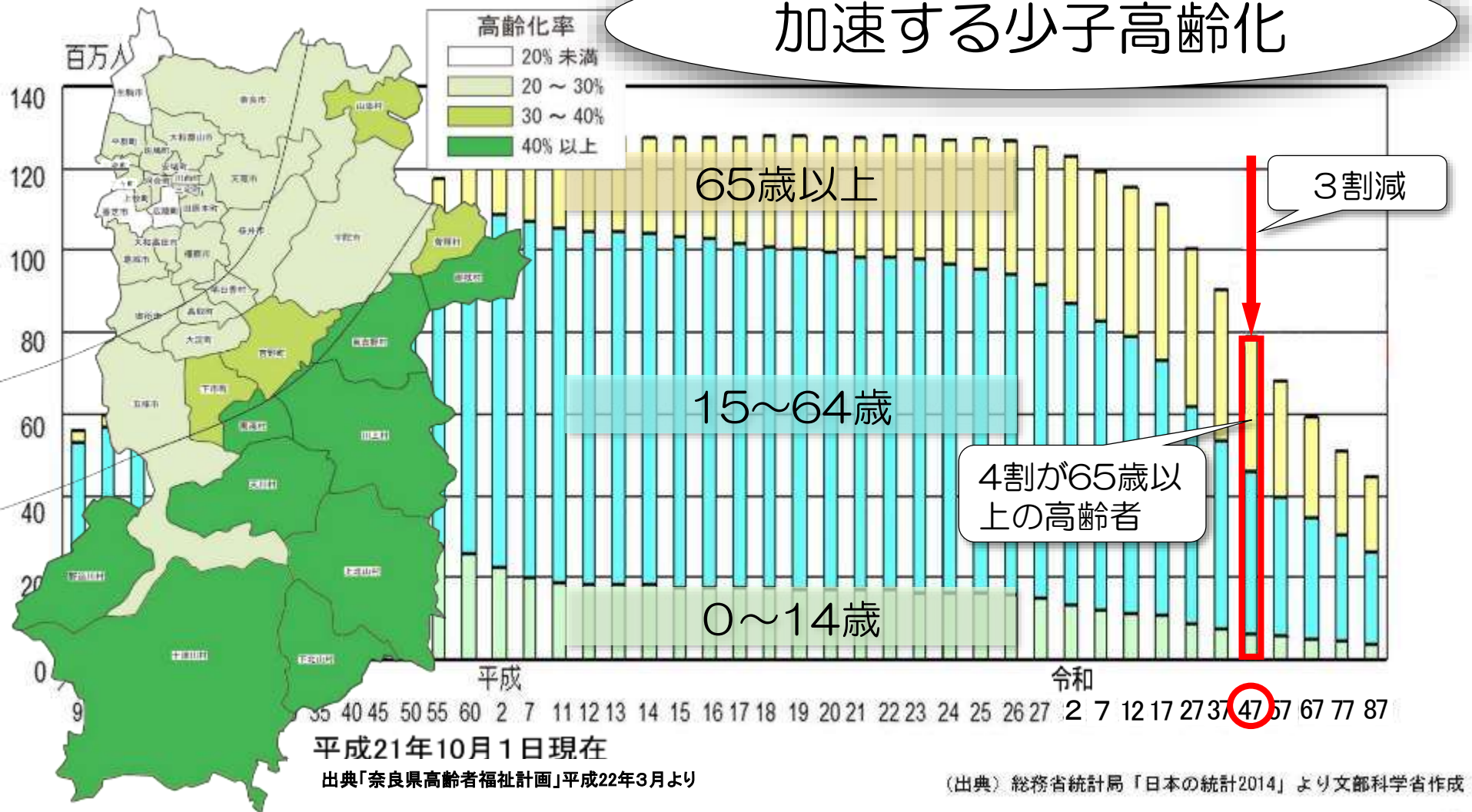
主幹 垣内 宏志

1 はじめに

人口の推移と将来人口

◆少子高齢化の進行により、約45年後には総人口が約3割減少、65歳以上の割合が総人口の約4割に達する見込み。

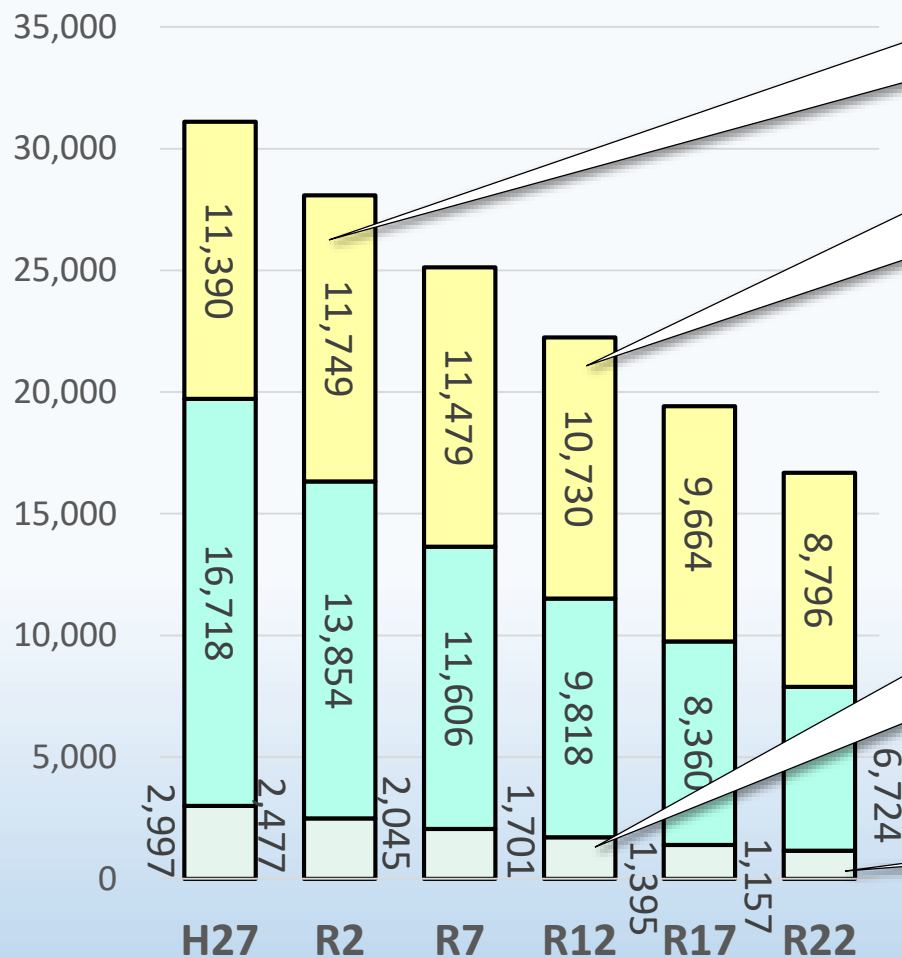
加速する少子高齢化



1 はじめに

宇陀市の人口推移と将来人口

□年少人口 □生産年齢人口 □老年人口



既に、宇陀市民の4割が65歳以上の高齢者

10年後には、65歳以上の高齢者が、生産年齢人口15～64歳を追い越す

10年後、15歳未満の子ども数は、現在の7割（全体の8％）に

20年後、15歳未満の子ども数は、現在の5割（全体の7％）に

1 はじめに

宇陀市学校規模適正化検討委員会条例

公立小学校・中学校の設置者である各市町村においては、それぞれの地域の実情に応じて、教育的な視点から少子化に対応した活力ある学校づくりのための方策を継続的に検討・実施していくことが求められる。その際、学校統合により魅力ある学校づくりを行う場合や、小規模校のデメリットの克服を図りつつ学校の存続を選択する場合等の複数の選択があると考えられる。

公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引の策定

平成27年1月27日 文部科学省

宇陀市の現状

- ・児童生徒数の減少
- ・1学年1学級の学校の増加
- ・榛原幼稚園・榛原西幼稚園の統合
→ 小学校でまた、2つの小学校に分かれる
- ・中学校で多様な部活動ができない など

地域から学校がなくなると・・・

- ・地域の活力の低下
- ・過疎化の一層の進行などが懸念される



検討委員会の設置

- ・適正規模についての検討
1クラスの人数は？ クラス替えは必要？
- ・適正配置についての検討
小中一貫教育は？ 通学距離は？

※ 2年かけて審議

(仮称)宇陀市学校適正化基本計画の作成
⇒ 具体的な学校の統合案

宇陀市学校規模適正化検討委員会(教育委員会の附属機関)

【所掌事務】

教育委員会の諮問に応じ、宇陀市立小学校及び中学校の適正規模及び適正配置に関することについて審議し、教育委員会に答申する。

【検討委員会構成員】(15人以内 任期は2年)

- | | | |
|-------------|----------------------|-------------|
| (1) 学識経験者 | (2) 市立学校長及び市立幼稚園長 | (3) PTAの代表者 |
| (4) 自治会の代表者 | (5) その他教育委員会が必要と認める者 | |

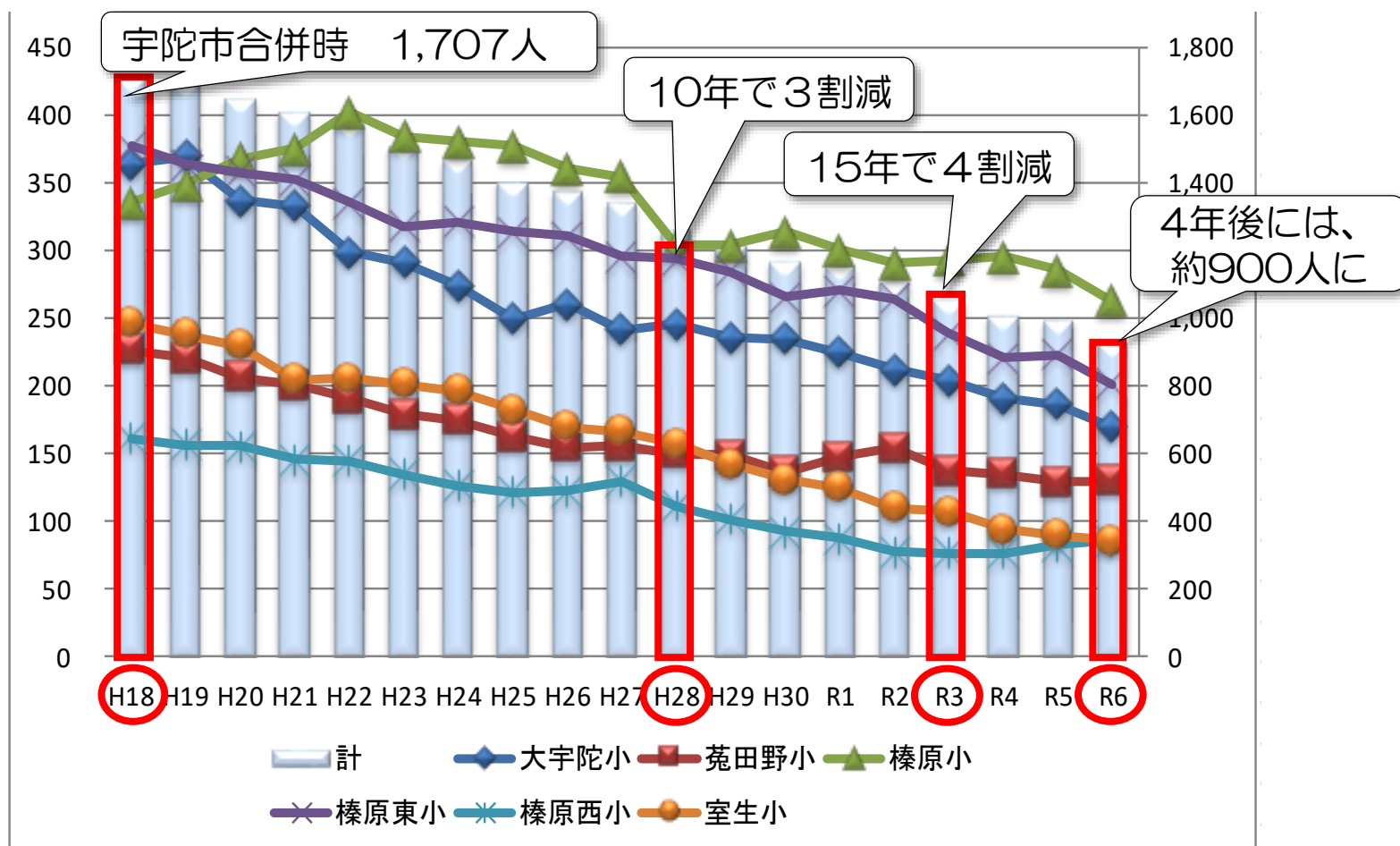
2 これまでの経緯

これまでの宇陀市学校規模適正化検討委員会の取組

令和元年	10月	
	11月	第1回宇陀市学校規模適正化検討委員会 ・委員の委嘱・任命 ・宇陀市の小中学校の現状報告 ・アンケート項目についての意見交換
	12月	保護者・教職員アンケートの実施(9~20日)
令和2年	1月	
	2月	第2回宇陀市学校規模適正化検討委員会 ・アンケートの結果の考察 ・中間報告の内容について
	3月	
	4月	
	5月	
	6月	
	7月	第3回宇陀市学校規模適正化検討委員会 ・中間報告の考察
	8月	市民との意見交換会

3 宇陀市立小中学校の現状

宇陀市の児童数の推移(H18～R6)



H20～R2 5.1現在

R3～R6 住民基本台帳より (H31.3 教職員課提出資料より)

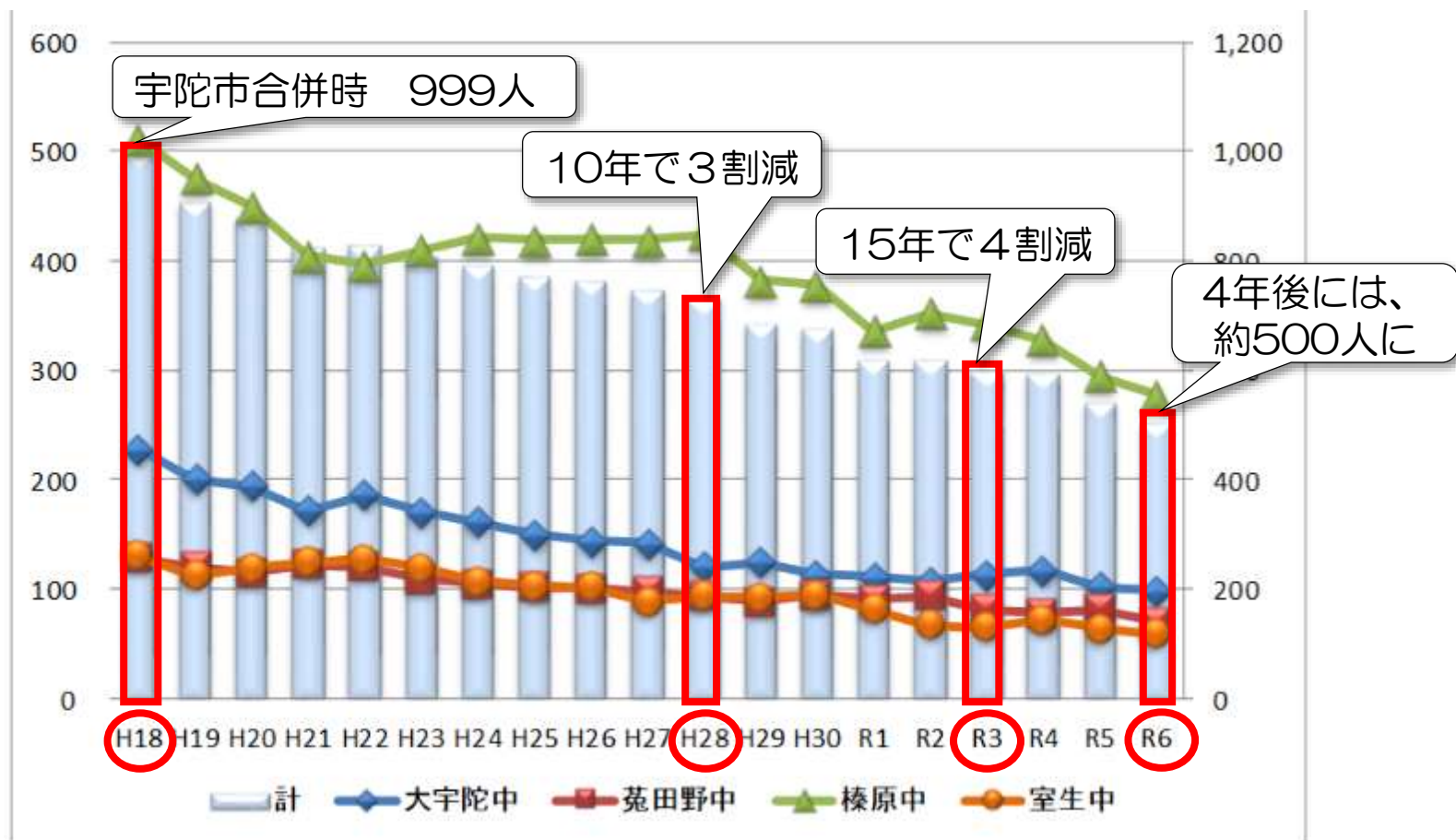
※大宇陀小 H20～H21 (大宇陀小・野依小・守道小・田原小の計)

H22～H24 (大宇陀小・野依小の計)

※室生小 H20～H27 (室生西小・室生東小の計)

3 宇陀市立小中学校の現状

宇陀市の生徒数の推移(H18～R6)



H20～R2 5.1現在

R3～R6 住民基本台帳より (H31.3 教職員課提出資料より)

※過去3年間の入学率考慮

宇陀市の児童生徒数は、合併後20年で半減

3 宇陀市立小中学校の現状

宇陀市の子どもの学力「H31全国学力・学習状況調査」から

○実施日

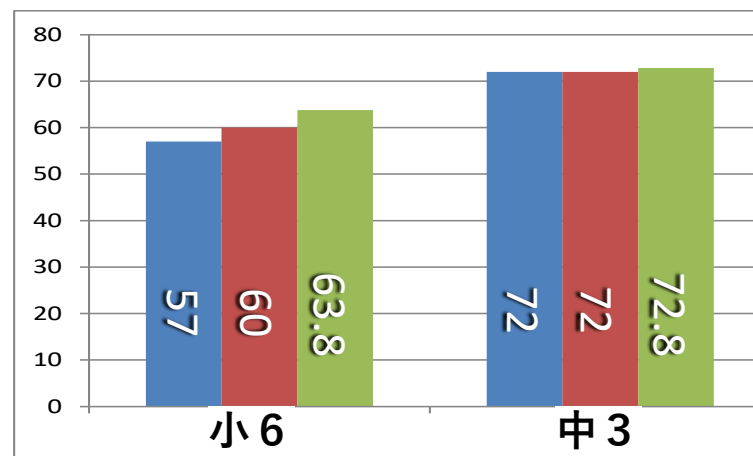
平成31年4月18日(木)

○調査対象 ()は市内の対象児童生徒数

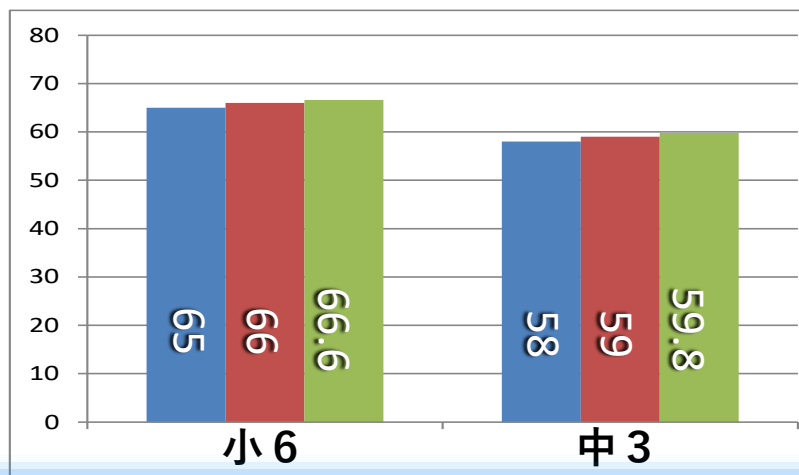
小学校第6学年(209人)

中学校第3学年(205人)

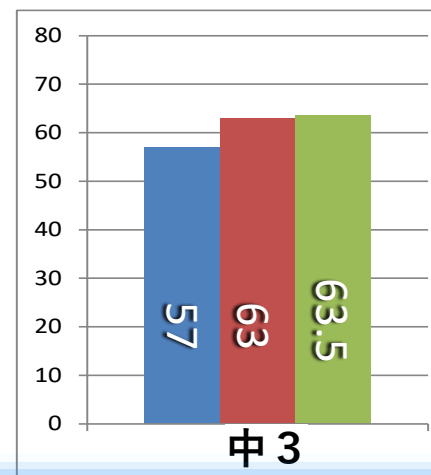
国語



算数・数学



英語



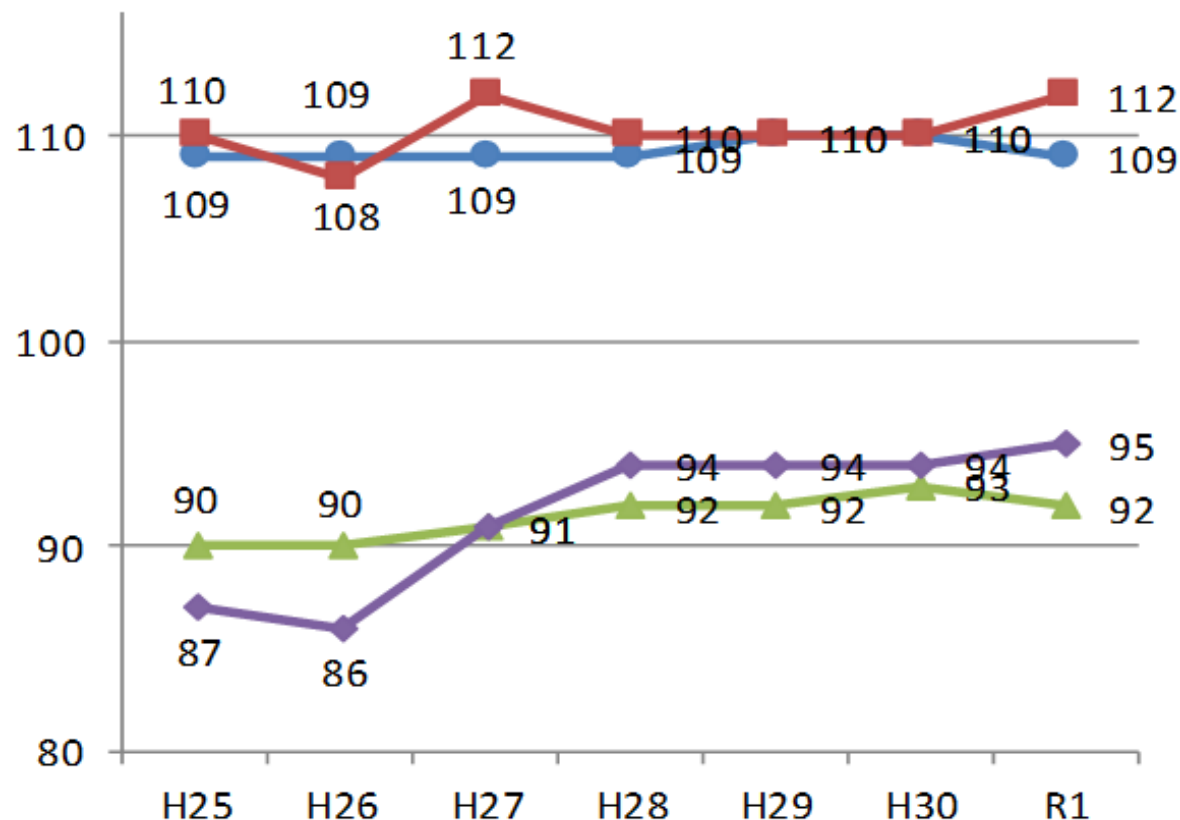
小学校の国語及び中学校の英語で全国平均との差が顕著

3 宇陀市立小中学校の現状

宇陀市の子どもの体力・運動能力「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」から

○調査対象

小学校第5学年及び中学校第2学年



握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン【又は持久走（男子1500m、女子1000m）】、50m走、立ち幅とび、ソフトボール【ハンドボール】投げ（【】は中学校）の体力合計点（各テスト項目に係る得点を合計した点数の平均値）

- 全国(小5)
- 宇陀市(小5)
- ▲ 全国(中2)
- ◆ 宇陀市(中2)

体力・運動能力については、小中学校とも**全国平均を上回る**傾向

3 宇陀市立小中学校の現状

宇陀市の子どもの問題行動

「児童生徒の問題行動・不登校・生徒指導上の諸課題に関する調査」から

【小学校】

		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
不登校	全国	3.6	3.9	4.2	4.8	5.4	7.0	未公表
	宇陀市	4.9	2.9	4.5	7.1	9.9	8.5	10.8
	児童生徒数	6	4	6	9	12	10	13
暴力行為	全国	1.6	1.7	2.6	3.5	4.4	5.7	未公表
	宇陀市	2.5	0.0	0.0	0.8	0.8	1.7	2.5
	発生件数	3	0	0	1	1	0	3
いじめ	全国	17.8	18.6	23.1	36.6	49.1	66.0	未公表
	宇陀市	5.8	8.7	14.2	11.1	145.1	139.3	207.0
	認知件数	7	12	19	14	176	163	249

【中学校】

		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
不登校	全国	26.9	27.6	28.3	30.1	32.5	36.5	未公表
	宇陀市	28.4	19.6	8.0	6.8	30.5	33.8	42.2
	児童生徒数	22	15	6	5	21	23	27
暴力行為	全国	11.3	10.1	9.5	8.8	8.5	8.9	未公表
	宇陀市	22.0	5.2	5.3	13.7	7.3	2.9	1.6
	発生件数	17	4	4	10	5	2	1
いじめ	全国	15.6	15.0	17.1	20.8	24.0	40.9	未公表
	宇陀市	2.6	15.6	26.7	13.7	21.8	30.8	51.6
	認知件数	2	12	20	10	15	21	33

○**不登校**の発生件数については、**小学校**が全国平均よりやや**高い**。また、不登校児童生徒数について、小中学校ともに漸増

○**暴力行為発生件数**については、小中学校とも全国平均より**低い**傾向

○**いじめの認知件数**については、**小学校**は全国平均よりかなり**高く**、**中学校**はやや**低い**傾向

3 宇陀市立小中学校の現状

宇陀市の子どもの規範意識と自尊心 「全国学力・学習状況調査」から

質問		全国 (H31)	奈良県 (H31)	宇陀市 (H31)	肯定的な回答をした児童生徒の割合の全国との差				
					H27	H28	H29	H30	H31
学校のきまりを守っていますか	小	92.3	90.8	88.6	2.0	-1.1	0.3	-5.1	-3.7
	中	96.2	94.4	97.1	-5.2	-2.8	-1.0	1.1	0.9
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	小	97.1	97.5	95.7	0.5	0.6	2.9	-2.7	-1.4
	中	95.1	94.6	95.4	-3.3	-2.6	-3.5	-1.9	0.3
自分には、よいところがあると思いますか	小	81.2	79.8	84.8	-1.2	-8.7	-6.5	-8.7	3.6
	中	74.1	71.2	68.3	-5.8	-6.7	-1.0	-2.6	-5.8
将来の夢や目標を持っていますか	小	83.8	83.5	81.6	0.5	1.4	1.4	-6.1	-2.2
	中	70.5	68.8	63.5	-2.6	-8.9	-4.0	0.1	-7.0

年度によってばらつきが見られるが、「自分にはよいところがあると思う」という自尊心について、小中学校とも全国平均よりも特に低い傾向

3 宇陀市立小中学校の現状

宇陀市の中学校部活動の状況 R2.6月現在

	大宇陀中学校	菟田野中学校	榛原中学校	室生中学校
生徒数	107	94	353	67
陸上競技	10		27	24
野球	2	6	16	9
ソフトテニス(男)	10		10	
ソフトテニス(女)	13		12	
バスケットボール(男)	8	24	22	
バスケットボール(女)			13	
バレーボール(男)		24	12	
バレーボール(女)		9	17	8
バドミントン	20		21	
卓球			19	
剣道			17	
吹奏楽	9	16	18	10
書道	12		13	
科学			3	
美術	14		39	
文芸		6		
文化研究				6
部活加入者	98	85	259	57
加入率	91.6%	90.4%	73.4%	85.1%



10～20人程度で活動することができるよう、学校の規模に応じて**部活動の数**を**精選**する一方で、生徒の多様な希望に沿った活動を保障するために、**他校と合同で行う**部活動もある

4 宇陀市学校規模適正化に関するアンケート調査

「宇陀市学校規模適正化に関するアンケート調査」について

(1) 調査の目的

宇陀市立小中学校の適正規模・適正配置を検討するに当たり、学校現場に最も関わりの深い保護者及び教職員の意見を集約し、今後の方向性を検討する資料とする

(2) 調査の対象等

宇陀市立幼稚園・保育所(園)・こども園、しらゆり保育園の保護者及び教職員
宇陀市立小学校及び中学校の保護者及び教職員

(3) 調査の期間

令和元年12月9日(月)～12月20日(金)

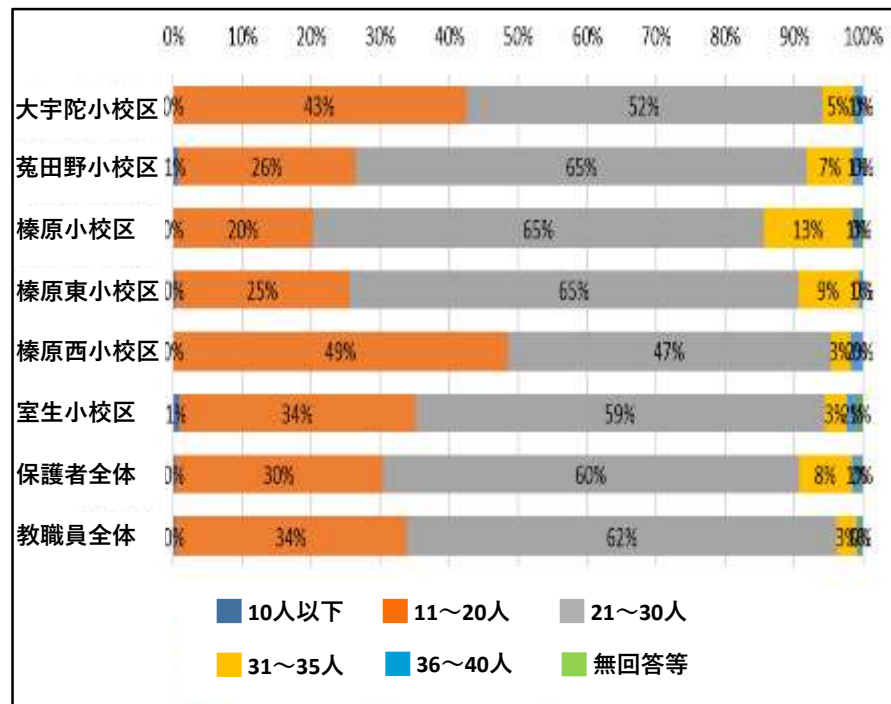
種 別	配布数	回収数	回収率
幼稚園・保育所(園)・こども園保護者	518	468	90.3%
小学校保護者	848	726	85.6%
中学校保護者	558	410	73.5%
教職員	364	351	96.4%
合 計	2,288	1,955	85.4%

※ 回収に関しては、各家庭1部のため、各校種にお子さんがいる家庭は、重複して回収数をカウントしている。

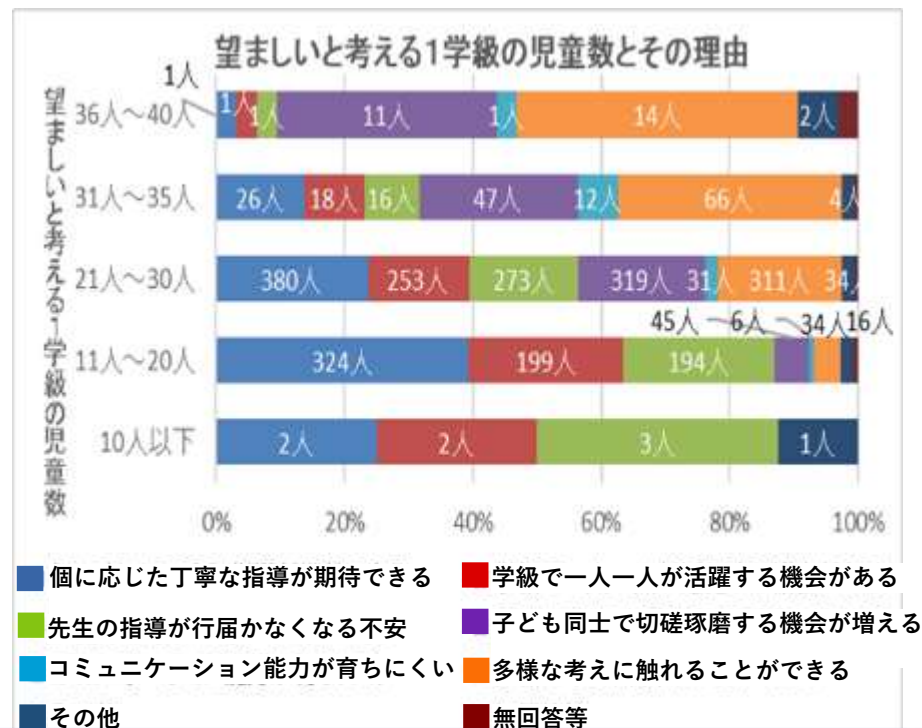
4 宇陀市学校規模適正化に関するアンケート調査

小学校の1学級あたりの児童数について

問3 あなたは、小学校の1学級あたりの児童数について、どの程度が望ましいと思われますか。



問4 あなたが、問3で回答した理由に近いものはどれですか。（3つ以内に○）

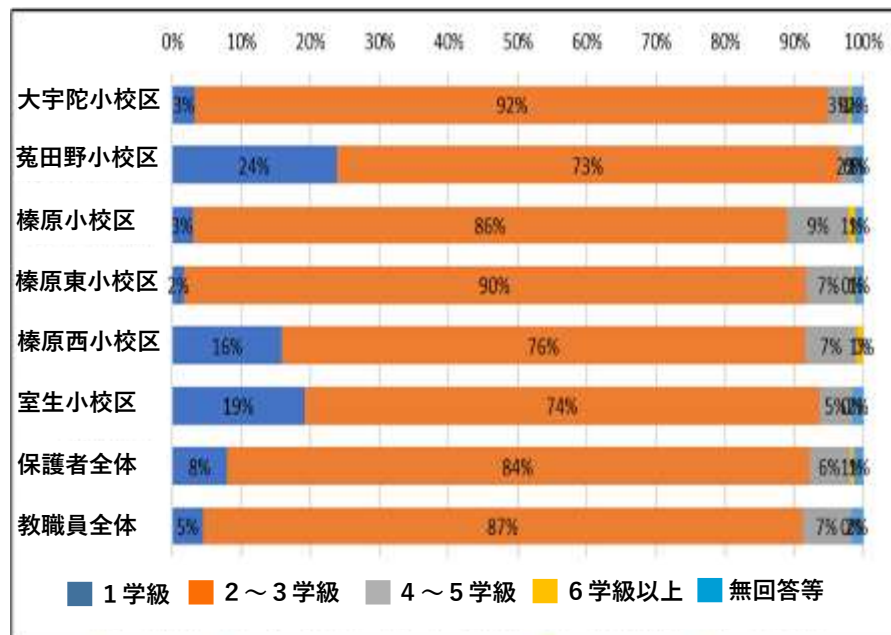


- 小学校の1学級あたりの**望ましい児童数**は、保護者、教職員とも**21～30人**が最も多く、全体の**約6割**を占めた。
- 望ましい児童数を**11～20人**と答えた理由として最も大きな割合を占めたのは、「**個に応じた丁寧な指導が期待できる**」であり、**31～40人**と答えた理由として最も大きな割合を占めたのは、「**多様な考えに触れることができる**」で、それぞれ**4割**程度を占めた。

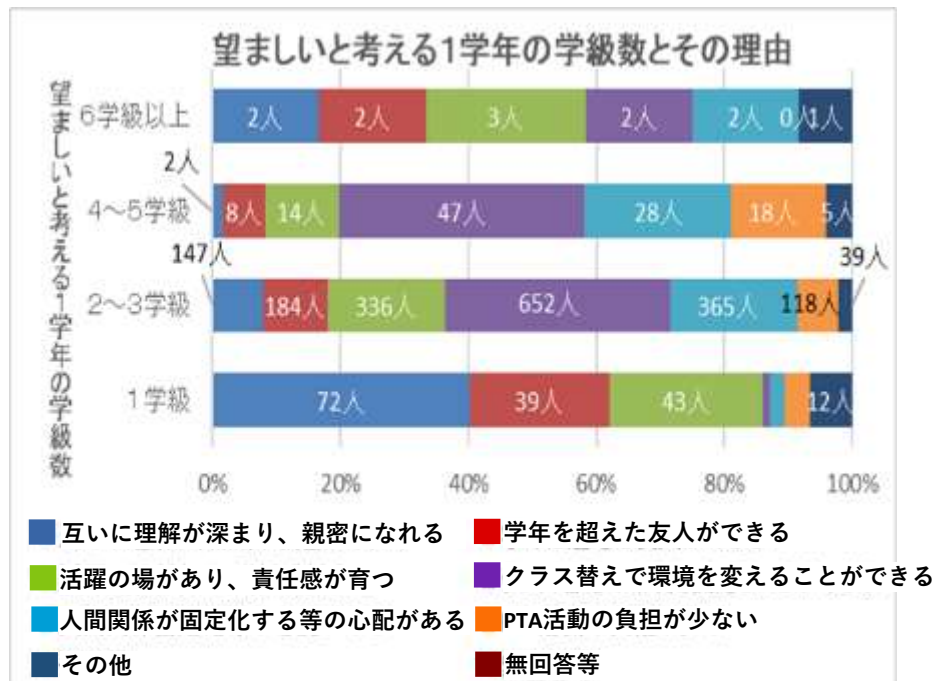
4 宇陀市学校規模適正化に関するアンケート調査

小学校の1学年あたりの学級数について

問5 あなたは、小学校の1学年の学級数について、どの程度が望ましいと思われますか。



問6 あなたが、問5で回答した理由に近いものはどれですか。（3つ以内に○）

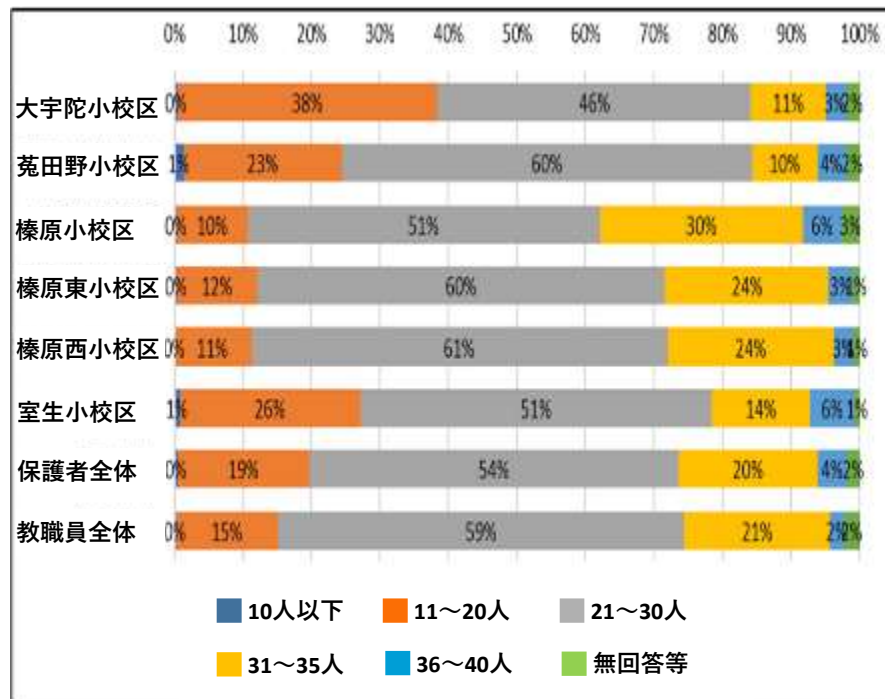


- 小学校の1学年あたりの望ましい学級数は、保護者、教職員とも2～3学級が最も多く、全体の約8割を占めた。
- 望ましい学級数を1学級と答えた理由として最も大きな割合を占めたのは、「友達同士互いに理解が深まり、親密になれる」ことであり、2～5学級と答えた理由として最も大きな割合を占めたのは、「友達同士でトラブルがあった場合、クラス替えで環境を変えることができる」であり、それぞれ4割程度を占めた。

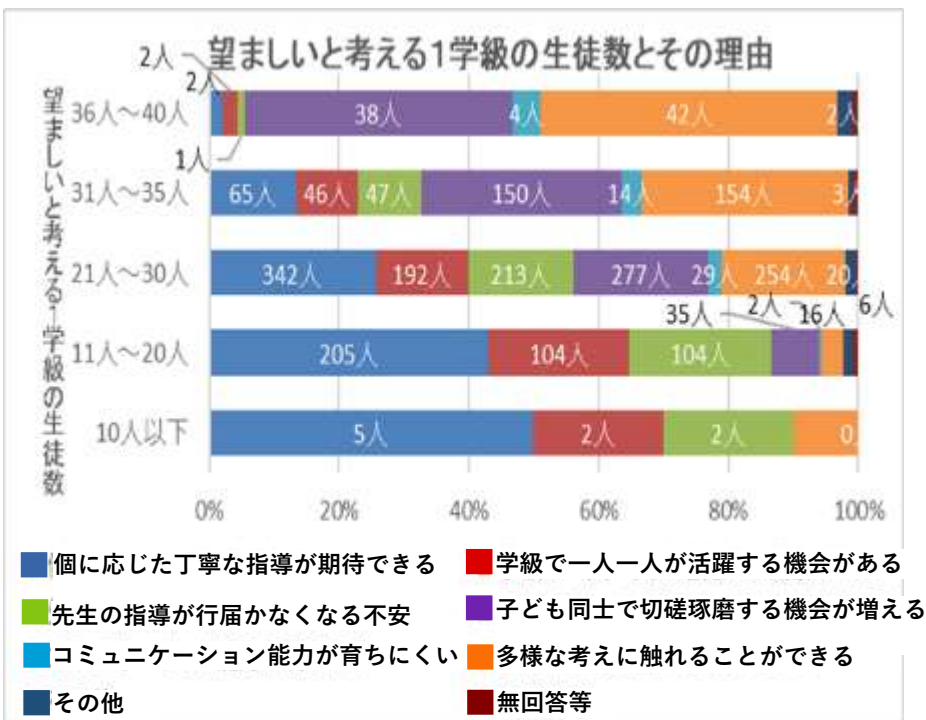
4 宇陀市学校規模適正化に関するアンケート調査

中学校の1学級あたりの生徒数について

問7 あなたは、中学校の1学級あたりの生徒数について、どの程度が望ましいと思われますか。



問8 あなたが、問7で回答した理由に近いものはどれですか。（3つ以内に○）

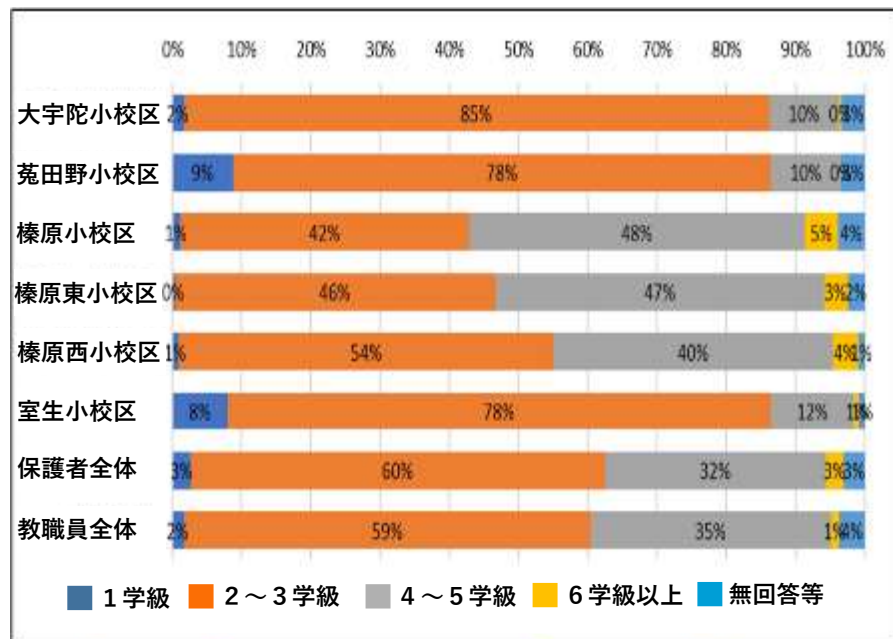


- 中学校の1学級あたりの望ましい生徒数は、保護者、教職員とも21～30人が最も多く、全体の約5割を占めた。
- 望ましい生徒数を20人以下として答えた理由として最も大きな割合を占めたのは、「個に応じた丁寧な指導が期待できる」であり、31～40人と答えた理由として最も大きな割合を占めたのは、「多様な考えに触れることができる」である。

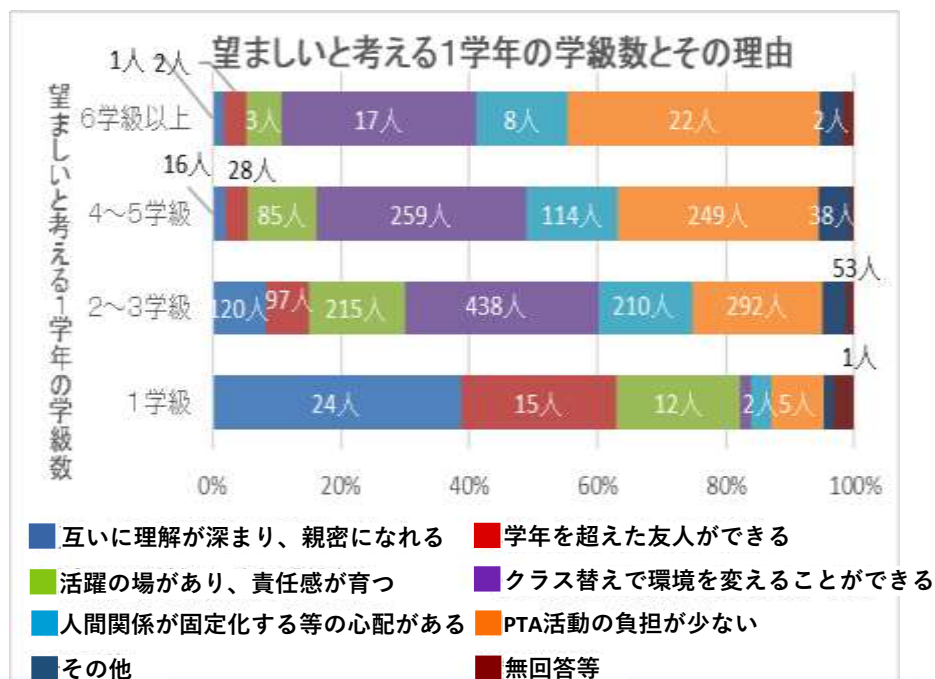
4 宇陀市学校規模適正化に関するアンケート調査

中学校の1学年あたりの学級数について

問9 あなたは、中学校の1学年の学級数について、どの程度が望ましいと思われますか。



問10 あなたが、問9で回答した理由に近いものはどれですか。（3つ以内に○）

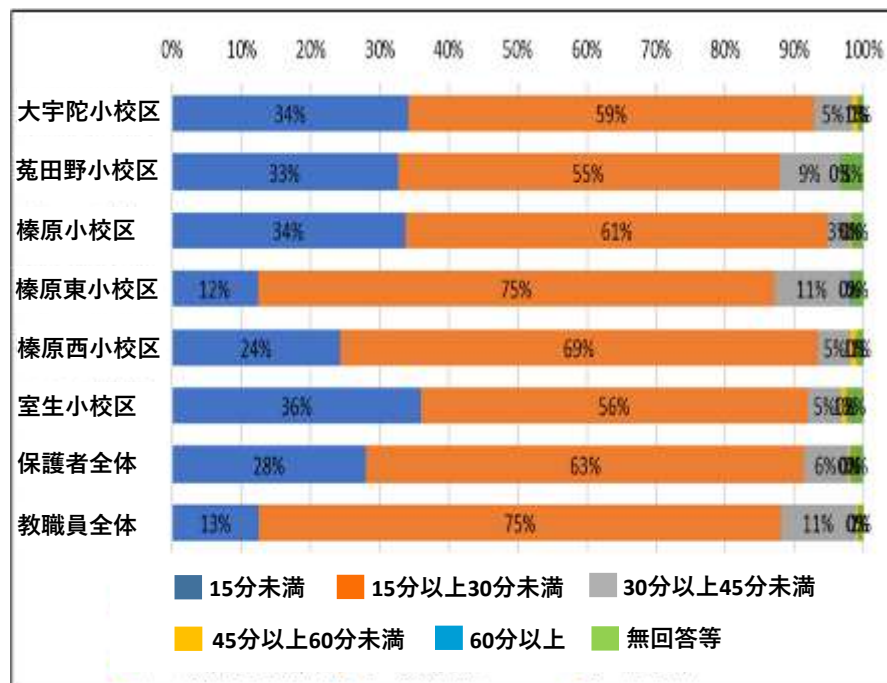


- 中学校の1学年あたりの望ましい学級数は、保護者、教職員とも2～3学級が最も多く、全体の約6割を占めた。
- 望ましい学級数を1学級と答えた理由として最も大きな割合を占めたのは、「友達同士互いに理解が深まり、親密になれる」ことであり、2学級以上では答えた理由として最も大きな割合を占めたのは、「友達同士でトラブルがあった場合、クラス替えで環境を変えることができる」、4学級以上では、「PTA活動の負担が少ない」が大きな割合を占めた。

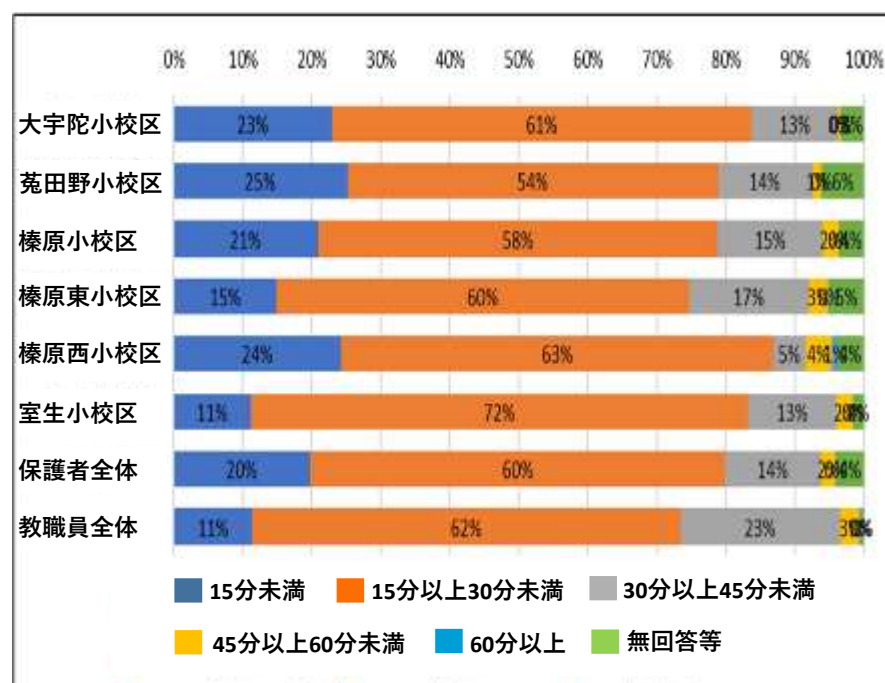
4 宇陀市学校規模適正化に関するアンケート調査

小学校の通学時間について

問1 1 小学校まで徒歩通学する場合、通学時間はどの程度までが、通学可能な範囲と考えますか。



問1 2 小学校までスクールバスで通学する場合、通学時間はどの程度までが、通学可能な範囲と考えますか。

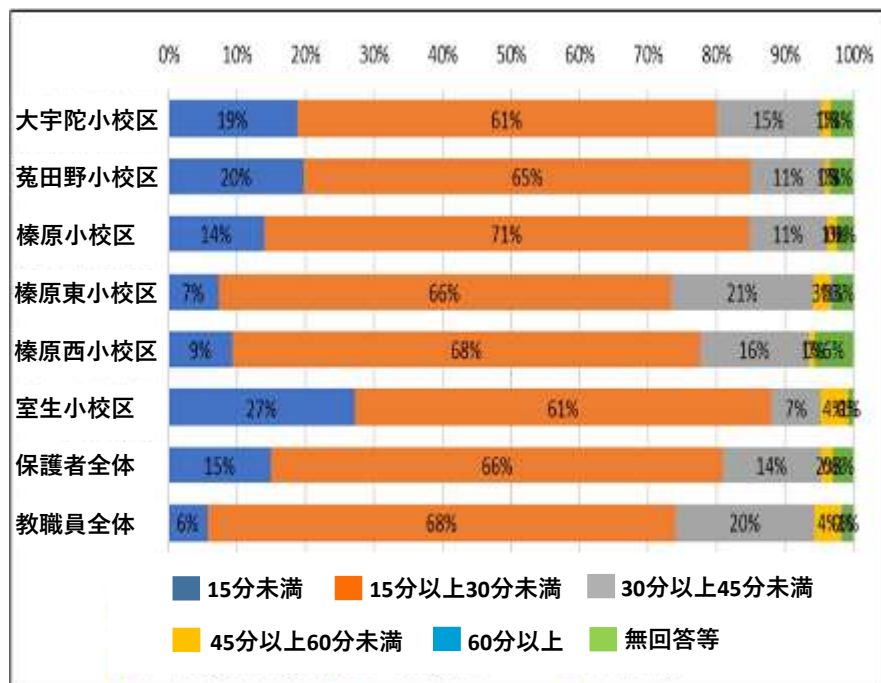


- 小学校の通学時間について、**徒歩通学**では**30分未満**と答えた割合が最も多く、保護者の回答の**約9割**を占めた。
- バス通学**でも**30分未満**と答えた割合が最も多く、保護者の回答の**8割**を占めた。
- 徒歩通学と比べて、バス通学で30分以上と回答した割合が約1割増える。

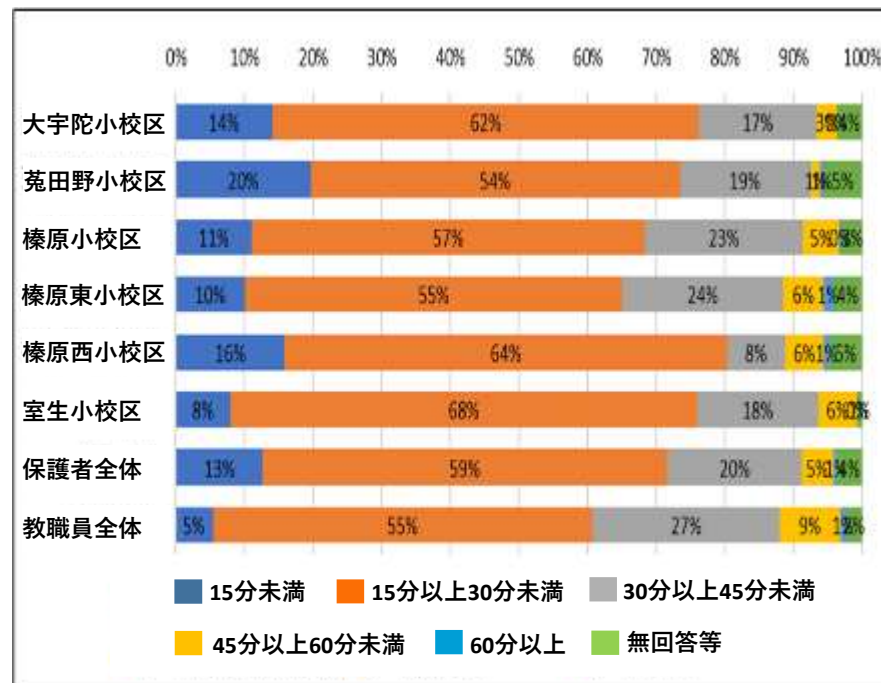
4 宇陀市学校規模適正化に関するアンケート調査

中学校の通学時間について

問13 中学校まで徒歩または自転車で通学する場合、通学時間はどの程度までが、通学可能な範囲と考えますか。



問14 中学校までスクールバスで通学する場合、通学時間はどの程度までが、通学可能な範囲と考えますか。

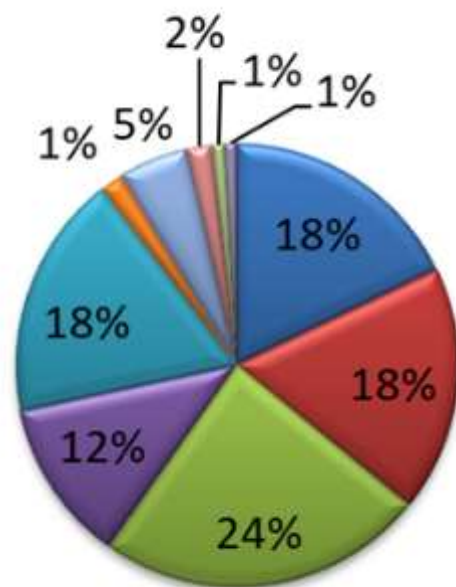


- 中学校の通学時間についても、**徒歩通学**では**30分未満**と答えた割合が最も多く、保護者の回答の**約8割**を占めた。
- バス通学**でも**30分未満**と答えた割合が最も多く、保護者の回答の**約7割**を占めた。
- 小学校と比べて、徒歩、バス通学ともに、30分以上と回答した割合が約1割増える。

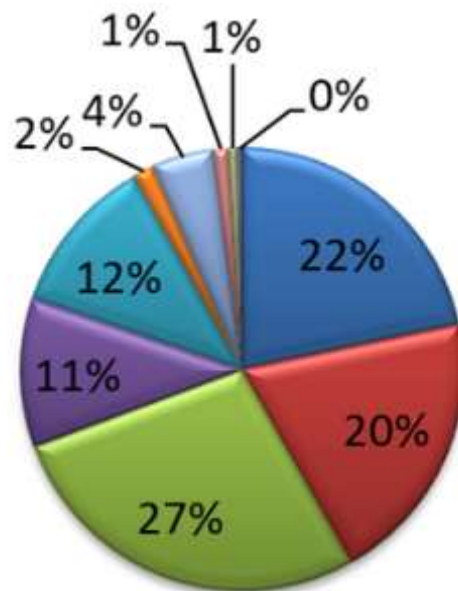
4 宇陀市学校規模適正化に関するアンケート調査

児童生徒に必要な教育環境について

問15 児童生徒にとってどのような教育環境が必要だと考えますか。（3つ以内に○）



【保護者】



【教職員】

- 子ども同士が刺激し合い、学力・体力を高め合うことができる環境
- 一人一人が行き届いたきめ細かな指導を受けることができる環境
- 社会性や協調性、コミュニケーション能力を身に付けることができる環境
- たくさんの友達、先生と触れ合うことができる環境
- 多様な学習形態の授業により、個々の能力を高めることができる環境
- ICTを活用した遠隔授業を受けることができる環境
- 部活動が充実している環境
- 義務教育の9年間を一貫して教育を受けられる環境
- その他
- 無回答等

児童生徒に必要な教育環境について、「社会性や協調性、コミュニケーション能力を身に付けることができる環境」と答えた割合が保護者、教職員とも最も多く、「子ども同士が刺激し合い、学力・体力を高め合うことができる環境」、「一人一人が行き届いたきめ細かな指導を受けることができる環境」が続き、ともに約2割を占めた。また、保護者の回答では、「多様な学習形態の授業により、個々の能力を高めることができる環境」も約2割を占めた。

5 今後について

今後の検討課題

宇陀市立小・中学校の児童生徒数

R2.5.8現在

		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支	計
大 宇 陀 小	児童数	36	23	33	25	39	35	21	212
	標準学級数	2	1	1	1	1	1	4	11
	届出学級数	2	1	1	1	2	1	4	12
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支	計
菟 田 野 小	児童数	22	30	16	23	20	29	13	153
	標準学級数	1	1	1	1	1	1	4	10
	届出学級数	1	1	1	1	1	1	4	10
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支	計
榛 原 小	児童数	40	36	54	44	38	52	26	290
	標準学級数	2	1	2	2	1	2	4	14
	届出学級数	2	2	2	2	1	2	4	15
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支	計
榛 原 東 小	児童数	35	44	36	35	42	46	26	264
	標準学級数	1	2	1	1	2	2	5	14
	届出学級数	1	2	2	1	2	2	5	15
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支	計
榛 原 西 小	児童数	10	12	10	8	9	19	9	77
	標準学級数	1	1	1	1	1	1	3	9
	届出学級数	1	1	1	1	1	1	3	9
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支	計
室 生 小	児童数	13	11	15	18	25	18	9	109
	標準学級数	1	1	1	1	1	1	2	8
	届出学級数	1	1	1	1	1	1	2	8
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支	計

		1年	2年	3年	特支	計
大 宇 陀 中	生徒数	39	31	31	6	107
	標準学級数	1	1	1	3	6
	届出学級数	2	2	2	3	9
		1年	2年	3年	特支	計
菟 田 野 中	生徒数	26	26	38	4	94
	標準学級数	1	1	1	2	5
	届出学級数	1	1	2	2	6
		1年	2年	3年	特支	計
榛 原 中	生徒数	115	100	120	17	352
	標準学級数	3	3	3	4	13
	届出学級数	4	3	4	5	16
		1年	2年	3年	特支	計

21～30人の学級
 【小】40.4% 【中】50.0%

20人以下
31人以上
 【小】48.9% 【中】37.5% 【小】10.7% 【中】12.5%

単学級の学年
教員加配による
少人数指導
 【小】77.8% 【中】75.0%

		1年	2年	3年	特支	計
室 生 中	生徒数	23	16	22	6	67
	標準学級数	1	1	1	2	5
	届出学級数	1	1	1	2	5
		1年	2年	3年	特支	計

5 今後について

今後のスケジュール

	8 月	市民との意見交換会
	9 月	中間報告の公表
	10月	市民との意見交換会
	11月	
	12月	第4回宇陀市学校規模適正化検討委員会 ・ 答申の内容について
令和 3 年	1 月	
	2 月	第5回宇陀市学校規模適正化検討委員会 ・ 答申の考察
	3 月	答申の公表